

極楽鳥海人のココがすごい！

横浜・鳥海人交流メンバー一同

2006年9月1日から3日の日程で、横浜でアマモ場再生活動を行っている市民活動グループを中心に8名のメンバーが山形県は酒田市で活躍する「NPO極楽鳥海人」を訪ね、飛島で海辺の自然体験（アマモ場の調査）を行いながら、交流を図ってきました。

その参加者によるメール座談会の模様です。

テーマは「極楽鳥海人のココがすごい！」です。 極楽鳥海のこんなところがすごい。視点 次に行くときはこんなことがしたい。視点 連携事業をするとしたらこんなことができそうだ。視点 その他何でも。という4つお視点で構成してみました。

「極楽鳥海人」の本を拝見して思いましたが、今回は鳥海人のほんの一部に触れただけです。それでも、十分に極楽だったわけですが……。私の友人で、富士山で活動している人がいます。北海道は小樽の出身なのですが、富士山に魅せられ、富士山を世界自然遺産に登録すべく、山中湖畔に廃校になった木造の小さな小学校を借り「自然学校」や「自然ガイド」、「富士山の清掃活動」をやっています。かつてそいつと議論したことがあるのですが、「富士山の裾野はどこまでだろう」という話です。「東京、横浜や千葉からも見えるんだからそこも裾野だろう。」などと言いながら結局は、「あの山の裾野でありたいと願う人たちがいる範囲は全て」ということになりました。鳥海人の人たちもそうした議論を積み重ねただろうと思いますが、鳥海山はまさにそういう山なのではないでしょうか？もしかしたら、富士山も鳥海山の裾野と言えるのかもかもしれませんね。

木村尚

視点 極楽鳥海のこんなところがすごい。

（森田）自然：部外者が改めて述べるまでもなく、鳥海山とそこから発する川と水、そこに生育する生物の多様性と農の営みがすばらしい。

鳥海山が海に近いことを改めて実感した（反面、海の視点が乏しいことも判明した）。
社会：行政区分に捉われず、環鳥海山という視点からネットワークを作り上げている点がすばらしい。

非常に多様な職種の人が参加しているところがユニーク（海辺研も見習わなくては）。楽しむということを表看板にしているのがすごい（自然というと保護という発想に囚われる人が多い）。

（木村）あの山・里・川・海の豊かな自然のつながりはすごい。しかし、それを皆当たり前だと思っている。でも、一番は人！元気だ。楽しんでいる。いろいろな才能に満ちている。夢がある。何でもできそうな予感を感じる。また、必ず行きたいと思わせる。うまい水を飲んでしていると、ああゆう人が育つのかなあ。行くのではなく帰る。

泊まるのではなく住む。そういうのがキーワードになりそう。
会長のスタジオにはもうびっくり。あの遊び心には感激しました。

(鈴木) 市や町といった行政単位でなく、山単位で集まっているところが、自然を相手にして無限の可能性を感じさせました。(あの山を眺めているだけで、俺は鳥海山人だーーーー!!!と叫びたくなる気がしますね)
東北は演歌のイメージではいつも暗い感じなのですが、その実態は明るい人が東京よりずっと多いと思っていました(かつて仙台に住んでいたときに感じました)が、今回も皆様と出会い、その予想を上回る明るさとパワーを感じました。

(坂本) まず驚かされたのは みんな「地元を好いている」という印象を受けたこと。
地方の方々は 皆それぞれに地元を好いているのですが 一部でなんだか冷めている。諦めている。というイメージが付きまとうのですが 極楽鳥海人にはそれが微塵もなく 「好いている」がそのまま 私の心に伝わってきました。
そして 鳥海の酒を出したときの嬉しそうな顔。 翌日の飛島での 芋焼酎を出したときの顔。本当に嬉しそうで、楽しそうで、とても安心し 癒される顔が素敵でした。横浜で 極楽鳥海人の方々とお会いする時 私は同じ顔で迎えることができるのか? ちょっと不安ですが 出来るだけ素敵な顔で迎えたいと思います。

(福島) 生まれ育った土地への「愛」がすごい!
沢山の人に鳥海山を知ってもらいたい。こんなに素晴らしい所なんだと自慢したいという強い愛情を感じました。「人」が魅力的ですね。

(工藤) まず、鳥海山の圧倒的な存在感が凄い。これは、実際に現地に行ってみて初めて分かりました。そして、山だけではなく、川が、海が持っている自然のポテンシャルが凄い。でも、現地の方々は海の凄さにはあまり気づいていないようでしたね。それから、極楽鳥海人の本とプロモーション映像が凄い。

視点 次に行くときはこんなことがしたい。

(森田) これは、鳥海山登山&星見-月光川もしくは牛渡川下り&釣り-鳥島ダイビングで決まりでしょう。

もちろん、それぞれの地で美酒と温泉を堪能することが必須となりますが。

(木村) まったく、同感。一部にしか触れていないのが残念でならない。新巻ジャケが作ってみたい。ゴドイモ焼酎を買いたい。農作業もやってみたい。米と水がうまいんで、セットで売ってくれないかなあ。ねえ、一幸さん。

(鈴木) 鳥海山から海を見てみたい。

鳥海山の麓の海辺で何ができるのか考えてみたい。(酒田港の広大なスペースの中に何か海を身近に体験できるような場所はないですか?)

(坂本)是非 シンボルである鳥海山へ登山をしてみたいですね。

鳥海山を肌で感じ 旨いビールを飲み? 風を感じてみたいです。

それができたら 極楽鳥海人としての気持ちを少しでも持つことが 出来るかもしれないですね。そして次を考えてみたいです。

(福島)地元ならではの生きる知恵があったら学びたい。「食・暮らし」など一幸さんのお母さん達の世代との交流も出来たら良いですね。農作業などでお手伝い出来る事はないでしょうか。

(工藤)佐藤一幸さんの家から朝一番で双眼鏡で仰ぎ見た鳥海山の山頂の荒々しさには驚きました。他のメンバーは安易に鳥海山登山を提案していますが、あの標高差を登り切るのは並大抵の事ではないと思われます。私もあの山頂に立ってみたいのは山々ですが、どのあたりまで車で行けるのでしょうか?テント泊となると、もはや我々シロウトが手出しできる世界ではないですね。

となると、やはり川の魚が魅力です。月光川のカジカ類は、生物地理上大変に有名で、魚類学会内では、北大の某先生が地元を出し抜いて研究成果を発表して物議をかもした事でも密かに知られています。湧水のトゲウオ類も見てみたいです。

のところでこと代抜いてせいん性画のながん学校川のですつつつ点とはくととなると度の辺まで炊いてにいい見た

視点 連携事業をしたらこんなことができそう。

(森田)同宿・同飯が仲良しの近道でしょう。

飛島の校舎、野島研修センターを利用した交換留学はすぐに実現できそう。

酒田の農と飛島・横浜の漁を相互体験し、物流する。

飛島の漁業者を勇気付けるためにも、小規模なパイロット事業を行ってみてはどうでしょう。

一口アワビは、静穏域の確保さえできればいけると思います(過去の失敗体験を詳細に検討することが前提となりますが)。

(木村)来年度は、酒田で「海辺の達人養成講座」と「海辺の自然学校」を一緒にやりたいですね。東京・横浜からのツアーも組んでみたいし、酒田からの訪問の受け入れも考えたい。とにかく、何か一緒にできるように企画しましょう。磯焼け対策でも何か一緒にできそうです。一道さん。

(鈴木)車で往復したら結構遠かったの、あの別の宇宙に行けてしまえるというワームホールがあるといいですね。酒田のある場所に行くと横浜に出会えてしまい、横浜のある場所に行くと酒田・鳥海山人に出会えてしまう。というやつです。アンテナショップではありません。例えば、ある日になると横浜の某事務所が横浜ワームを通過した庄内地域となっており、全員が鳥海山人になってテンションが上がって

る。訪れる人々は、食とビジュアルと音と人で、日本海と鳥海山を堪能できる。堪能した人は思わず次のように言うのであった。「こげしてもらて、もっけのっ」

(坂本) 味わった 酒・芋焼酎・水・米などを 横浜で扱えると楽しそうですね。

ショップの子は 鳥海山を見て育った人に頼み 庄内のすばらしさを伝えることができる方々の集えるショップ。ただの販売店ではなく そこで一杯飲める！。ミナノ塩漬けが食べられる。そして そのショップ から生まれる「極楽鳥海人横浜支部」。

そちらが嫌でも 無理やり繋げて行きますよ材。。一口のりません??

ショップの名前は「極楽鳥海人 横浜支部」 そのまんま・・・

そして「横浜支部」と 代表の持つスタジオや 行きつけの居酒屋数店舗をネットで繋げて 夜な夜な極楽鳥海人交流や ライブを行う！

(福島) 地域のPRを望んでいらっしゃるから、まずは人の集まる 11月23日の「夢ワカメワークショップ」か25日の「オールクリーン野島」の時に来て頂いて、一緒に企画してみても如何でしょうか。

(工藤) 秋田側からの鳥海山を見て(酒田側より美しいとの噂) 人との交流もして、環鳥海の基本的な経験を積んでから環鳥海との連携の提案をしていきたいです。今は、うわべだけの薄っぺらな案しか思い浮かびません。

視点 その他何でも。

(森田) 海草(うみくさ)と海藻の分布状況について

現時点では、アマモの分布が確認された下限水深としては日本一であるので、これを海の美しさの売りとしてはいかがでしょう。

1箇所ではアマモ・スゲアマモ・ウミヒルモの3種が混成しているのはここだけかもしれない。

海水浴場の海藻の多様性は特筆ものです。

アマモ移植の余地もあります。

海の自然公園として大々的に売り出してはいかがでしょう(日本海側では希少な存在です)。

(木村) 情報交換は続けましょう。あのプロモーション映像は最高です。当会のものも作ってもらいたいですね。加賀谷さんのギターうまかったなあ。バンドの演奏も聞いてみたかったなあ。

(鈴木) かつて、仙台にいて酒田の仕事をしていたとき、結構つらい仕事だったのですが、酒田の人たちの援助でなんとか乗り切ることができました。庄内平野の地吹雪の中を一人で運転したこともいい思い出になっています。今回はそれ以来でした。ほんとお世話になりました。

(坂本) いろいろなツアーを横浜から出せると思います。

まず 本当のハマッコ(横浜人)には故郷がありません。そこで「庄内ふるさと体

験ツ-」「あなたも極楽鳥海人になれる！」「山・風・潮そして腹 満腹ツ-」なんてキャッチで 参加者には 「極楽鳥海人 初心者認定カード」を発行し 酒・芋焼酎・水・米が 割引で買える制度を作り 庄内の美味しさや楽しさを 継続して伝えていく。そして 第2弾 「極楽鳥海人アドバンスツアー」初心者認定カードを頂いた方への さらに深く極めるための アドバンスコースの設定。ここはマニアックと思われる箇所でのツアーがあり さらに庄内を知ってもらうためのグレードアップしたツアーを企画。このようなグレードアップしたツアーを数回繰り返すとまさに究極の「極楽鳥海人インストラクター」認定カードが貰える。。なんていかが??

(福島) 子供達の「飛島・疎開体験合宿」は?地震が来た時にいち早く子供達が安全な場所に避難できたならば、大人達は安心して復旧に力を注げます。

飛島の小学校に宿泊し、自立した生活を体験する。飛島のお年寄り達に先生になって頂き、生きる知恵を学び体験する。

飛島の人々にとっても子供達との交流はきっと活力を得られえるものとなるでしょう。遊佐町・飛島がハマッコの故郷になったら素晴らしい。

(工藤) 鳥海山を背景に、たわわに実った遊佐米の田んぼを見て来たことが、工藤家的には最大のニュースでした。私の家は、生活クラブ生協を通じて10数年来遊佐米の購入を続けており、おそらくこの先死ぬまで遊佐米を食べ続けると思います。こうなったきっかけは、1993年の冷夏による米の大凶作でした。国産米が手に入らず、店頭にあったとしてもとんでもない高値をつけた中、遊佐農協は契約どおりの価格で米を出し続けてくれました。あこぎな商売をしようとするれば相当儲けられたらうに、遊佐の人は実直に約束を守り通してくれたのです。あの年に長男が生まれたのですが、周りの赤ちゃんが初めて口にするコメがカリフォルニア米だったりタイ米だったりした中、遊佐のお陰でうちの子には日本のコメの離乳食を食べさせてあげる事ができました。

こんな小さな交流の歴史(大げさですが)は、掘り出せばいくらでも見つかるのではないのでしょうか?極楽鳥海人発足以前の、こうした交流の検証をしてみはいかがでしょうか?

個人的には、極楽鳥海人の資金繰りについて知りたいです。あの豪華な本やプロモーション映像には一体いくらかかり、そのお金はどのように調達したのか、その事だけでも教えて下されば有り難いです。



